GMOグローバルサイン・HD
GlobalSign

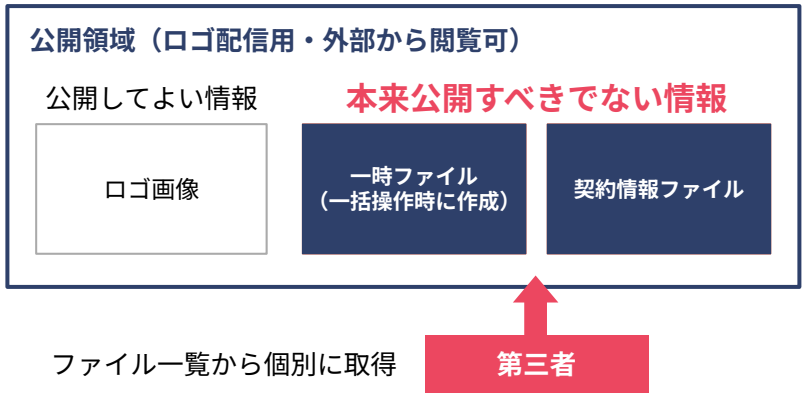
2026年12月期 第3四半期
決算説明資料

GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社
証券コード：3788（東証プライム）

お詫び・問題の本質と現在の状態

お客様ならびに関係者の皆様に多大なるご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます

問題の本質：情報資産の管理の不備



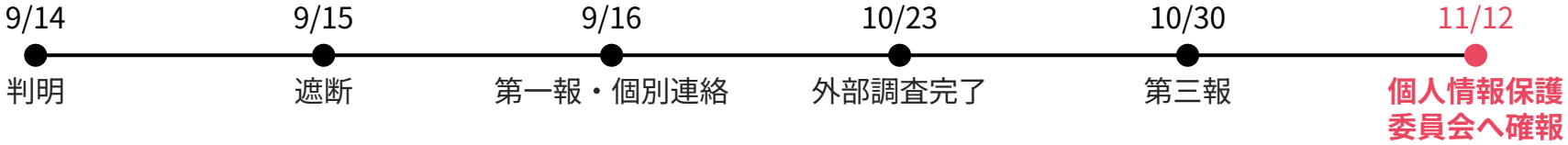
2017年11月～2026年9月15日、外部から取得できる状態

現在の状態

遮断済み 9/15　外部からのアクセスをすべて遮断

調査完了 10/23　外部専門機関が第三者による取得を確認

調査結果：対象	含まれていない情報	二次被害
2,492社 45,030人	**・ログインのパスワード ・多要素認証 ・決済情報**	**報告なし** 11月12日時点



GMOトラスト・ログインの再発防止と管理体制の強化

不備のあった3つの管理を是正し、認証局で運用している厳格な統制をGMOトラスト・ログインへ広げます

追加する統制：事業継続／運用セキュリティ／監視／脆弱性管理　（運用・監視は2027年1月から共通基盤へ統合）

管理の領域	今回の不備	完了事項	残対応
保存先・アクセス権限・保存期間の管理	公開領域にお客様情報を含むファイルを保存し、削除せず保管	• 外部アクセスを遮断 • リンクに署名・有効期限を付与 • 残存ファイルを全削除 • 全保存場所で一覧取得を停止	• 原則非公開の構成へ移行 • 保存期間に応じた自動削除・暗号化
設計・変更時の確認	保存先・公開範囲を開発段階で確かめる仕組みなし	• ファイルを扱う全機能を総点検	• 設計時の確認を必須化 • コード自動確認・リリースごとのテスト • ファイル処理の共通部品化 • 外部専門家の設計レビュー
監視・監査	ストレージが定期診断の対象外で、長期間気づけず	• 全保存場所の常時監視を導入 • クラウド診断の重要指摘を修正	• 公開領域の自動チェック • 外部診断を年2回以上・全公開資産へ

GMOグローバルサイン・HD連結企業のリスク点検結果

連結企業群の全システムを点検し、現時点での安全性を確認しています

① 連結企業群のリスク点検

安全性を確認

- 連結各社の全システムを対象に、外部点検・内部点検を完了
- 外部からアクセスできるシステムは、重要度の高い指摘事項の対応完了

② 認証局事業

影響なし

- 認証局は異なるシステム環境で提供しており、本件による情報漏えいや不正アクセスなどの影響はない
- 当社の他の事業においても同様に影響はない

③ 連結業績への影響

軽微

- 現時点において、本件の連結業績に与える影響は軽微の見通し

GMOグローバルサイン・HD連結企業群のセキュリティガバナンス強化

グループ連携：GMOグローバルサイン・HDのCISOとの連携を強化し、連結企業群の情報資産の管理と再発防止策の進捗を継続管理

外部連携：社外取締役が監視およびチェック可能な透明性の高いガバナンス体制の構築

GMOインターネットにおける不正アクセス事案について

当社と同じ企業グループに属する、GMOインターネット株式会社（証券コード：4784）が提供する「お名前.com デスクトップクラウド」への不正アクセス事案により、ご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当社のシステムへの影響について

当社のシステムは、「お名前.com デスクトップクラウド」とは独立した環境で構築・運用しております。セキュリティ対策も当社が個別に設計・運用しております。本日時点において、本件に起因する当社サービスへの不正アクセス及び情報漏洩は確認されておりません。

足元のお客さまの動向について

本件を受け、一部の広告宣伝を控えたことで、営業に影響が生じた時期がありました。
第4四半期以降の当社業績への影響については、現時点では軽微と見込んでおります。

目次

01 第3四半期決算実績

02 注力サービスの状況とKPI

03 今後の見通し（連結）

04 トピックス

05 次の成長に向けて

06 Appendix

エグゼクティブサマリー

業績

累計増収増益。四半期営業利益は前四半期比で回復
年間配当予想を74円35銭に増額

事業

注力サービスである「GMOサイン」「GMOトラスト・ログイン」「CloudCREW byGMO」が引き続き好調

戦略

「AI × 認証 × インフラ 」実現に向けて
「JOINT AI Flow byGMO」強化や共同実験を実施

第3四半期決算実績

業績ハイライト　2026年12月期 第3四半期累計

売上高・営業利益は前年を上回り、四半期純利益は57.0%増

連結売上高

16,644百万円

前年同期比 **10.2%増** / 進捗率 **74.7%**

連結営業利益

997百万円

前年同期比 **1.4%増** / 進捗率 **61.5%**

連結経常利益

1,038百万円

前年同期比 **8.5%増** / 進捗率 **65.4%**

親会社株主帰属 四半期純利益

1,104百万円

前年同期比 **57.0%増** / 進捗率 **84.1%**

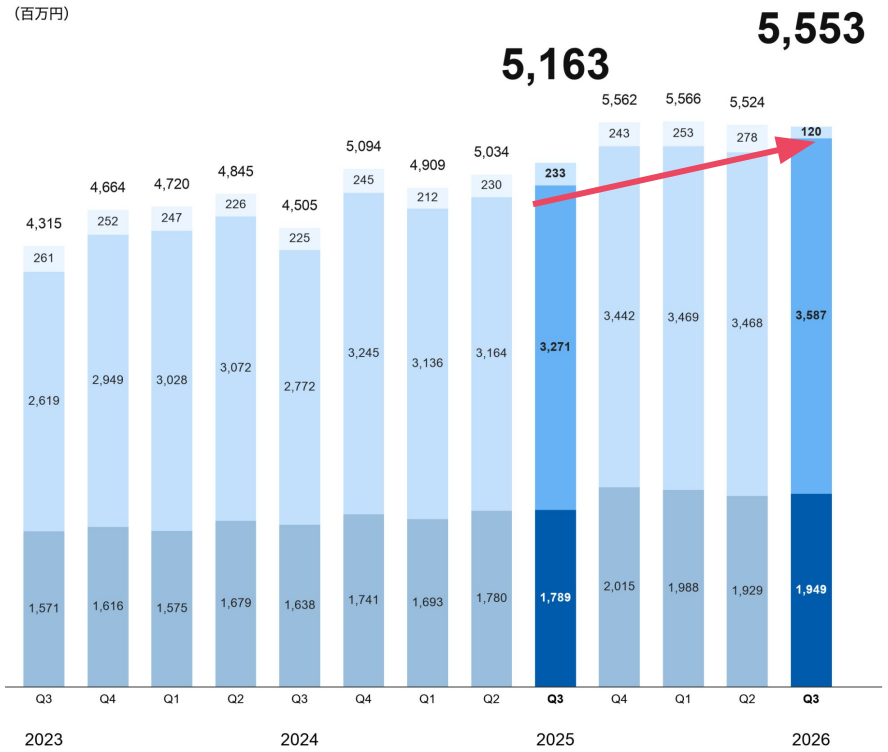
EBITDA

2,395百万円

前年同期比 **7.4%増**

四半期売上高推移

注力サービスが引き続き好調

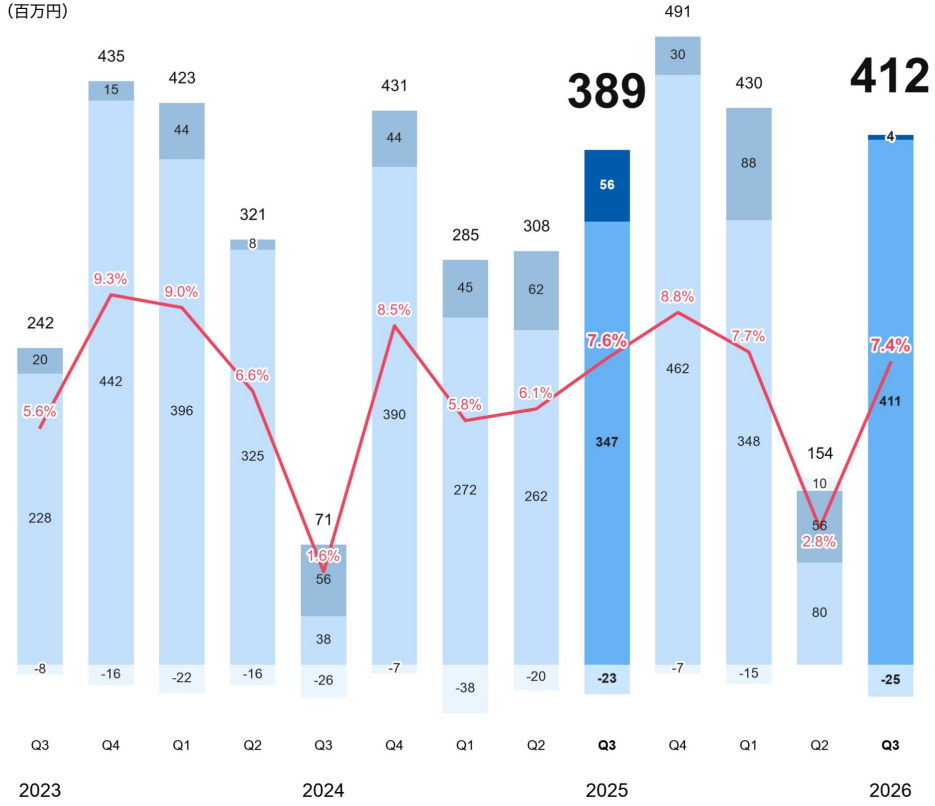


前年同期比

7.5%増

四半期営業利益推移

電子認証・印鑑事業が前四半期より回復



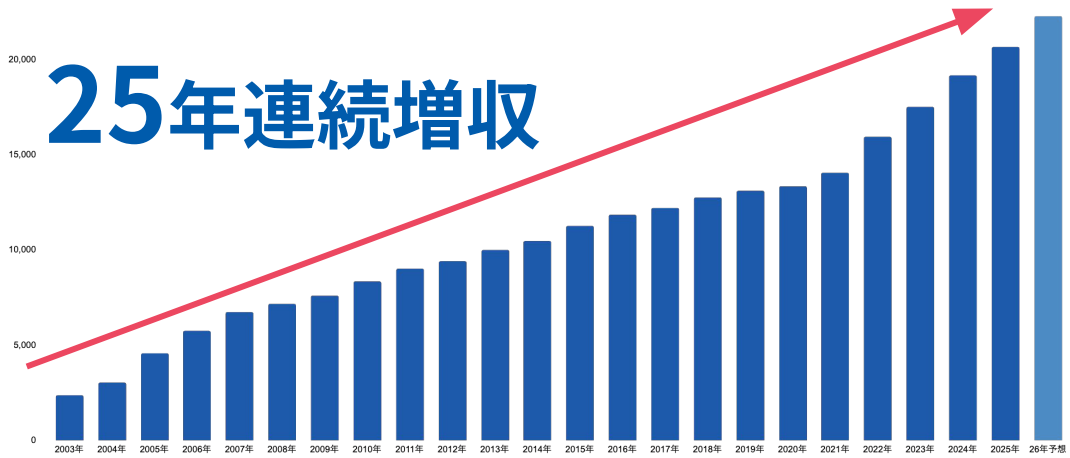
前年同期比

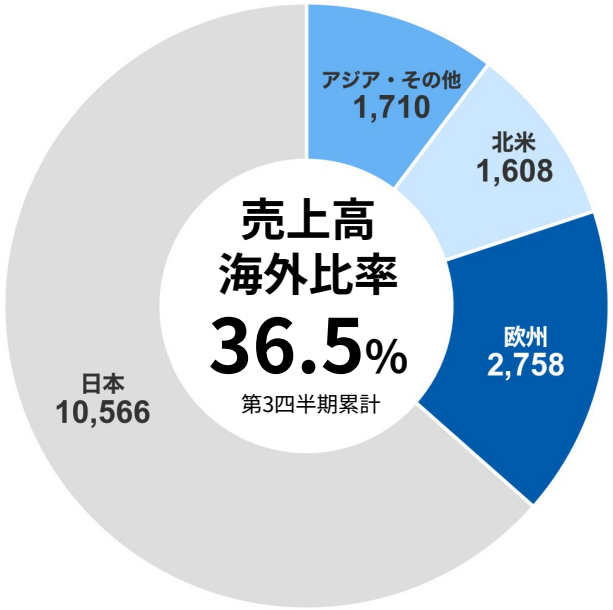
5.7%増

注力サービスの状況とKPI

連結KPI

ストック型事業の収益積み上げとグローバル展開を通じ、持続的な成長基盤を強化





（百万円）

認証・セキュリティの知見を活かし、成長領域を拡大

GlobalSign by GMO 認証局として培った技術・運用実績・信頼

運用実績
30年

国内SSLシェア
No.1

提供国・地域
230/196※

GlobalSignルート証明書搭載率
99.9%

Google Microsoft Mozilla

GlobalSignの証明書を使用した電子署名数
600万

電子印鑑なら GMOサイン docusign Adobe Acrobat Sign

■ 電子証明書関連サービスの高度化

VMC
市場拡大（前年比約50%増）を背景に、パートナー販売を強化し拡販

CLM
証明書有効期間の短縮を追い風に、SaaS型CLMを投入し拡販

■ オンライン本人確認領域への展開

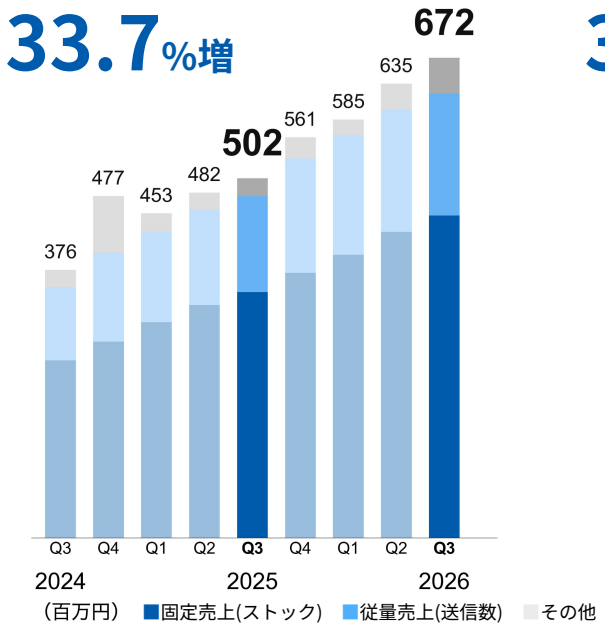
GMO顔認証 eKYC
国内市場で展開。売上高拡大中

※ 世界の国数196（2026年 外務省発表データに基づく）

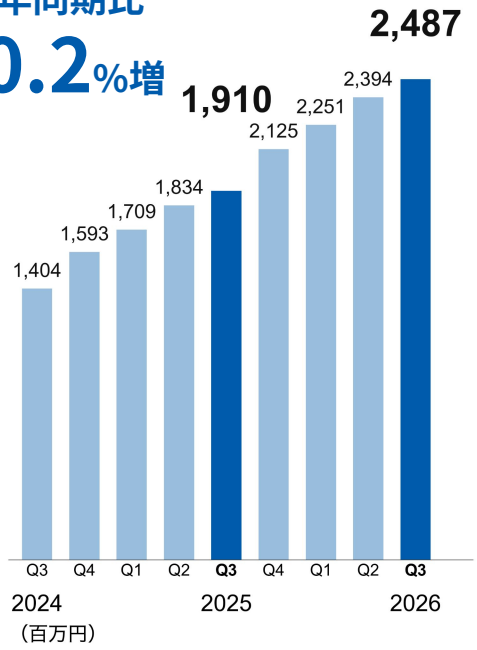
売上高（成長、収益）・ARR（安定収益）・契約送信件数（利用拡大）

新規顧客開拓、単価向上、大口顧客向け開発収入が成長を牽引

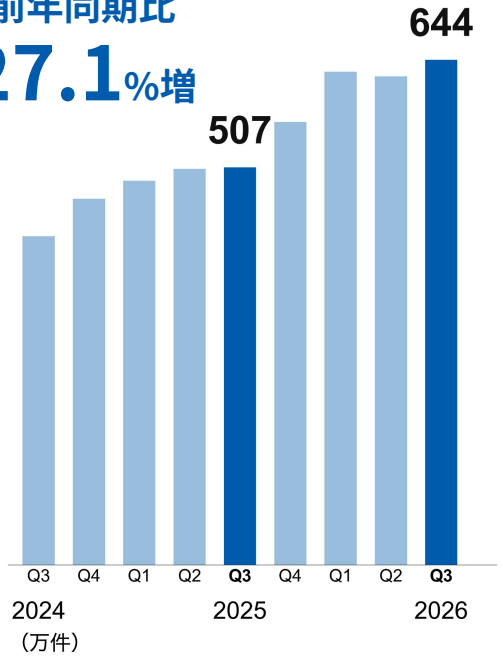
売上高 前年同期比 33.7%増



ARR 前年同期比 30.2%増



契約送信件数 前年同期比 27.1%増



※四半期毎の契約送信件数を集計。2025年第1四半期における大量のテスト送信（無料）を除外して集計

自治体から上場企業まで、幅広い組織で選ばれるGMOサイン



自治体導入数
283※

国内上場企業の
約82%が利用中

LGWAN（総合行政ネットワーク）対応

導入自治体（一部抜粋）

東京都	北海道	大阪府	茨城県	群馬県
神奈川県	山梨県	静岡県	福井県	滋賀県
奈良県	岡山県	広島県	山口県	熊本県
大分県				

取得済認証一覧

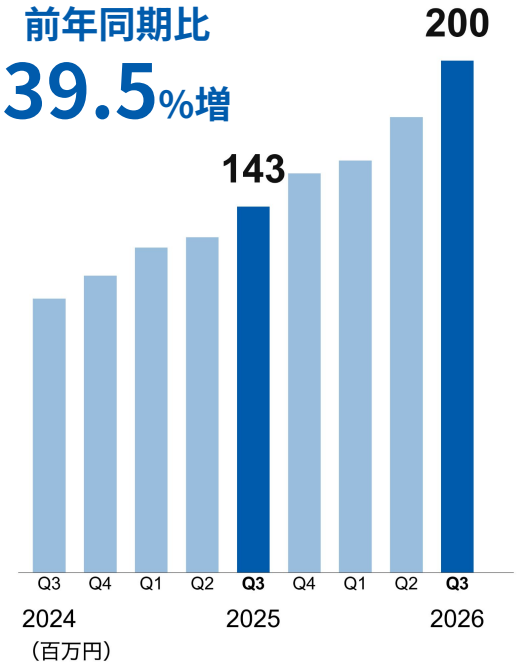
- ISO/IEC27001（情報セキュリティ）
- ISO/IEC27017（クラウドサービスセキュリティ）
- ISMAP登録
- SOC2 Type2保証報告書受領
- JIIMA認証

※ 2026年9月30日時点で「電子印鑑GMOサイン」または「GMOサイン電子公印」を有償契約している公共団体

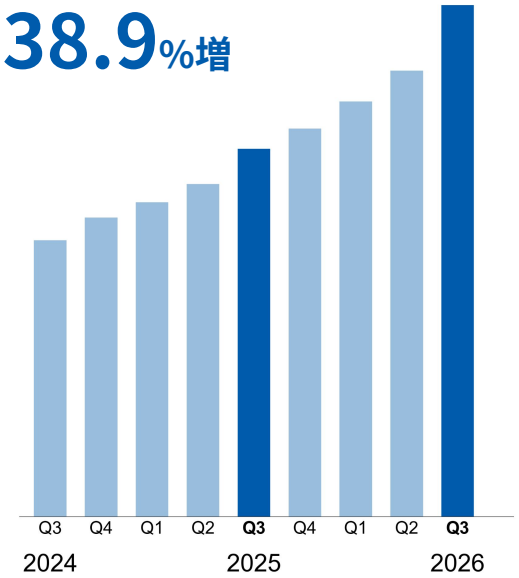
売上高（成長、収益）・ARR（安定収益）・有料ID数（利用拡大）

大口顧客が継続して好調

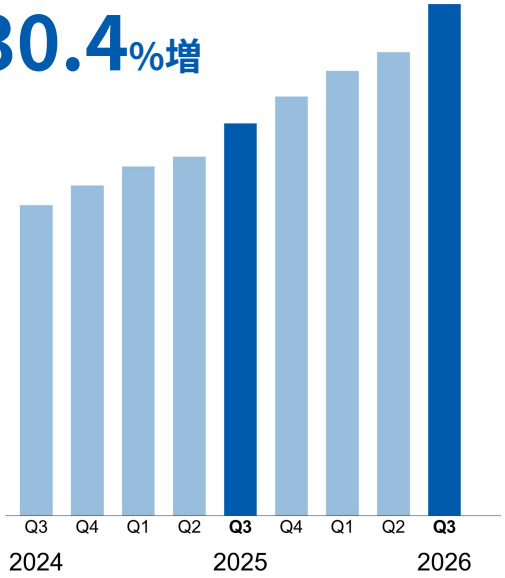
売上高
前年同期比
39.5%増



ARR
前年同期比
38.9%増

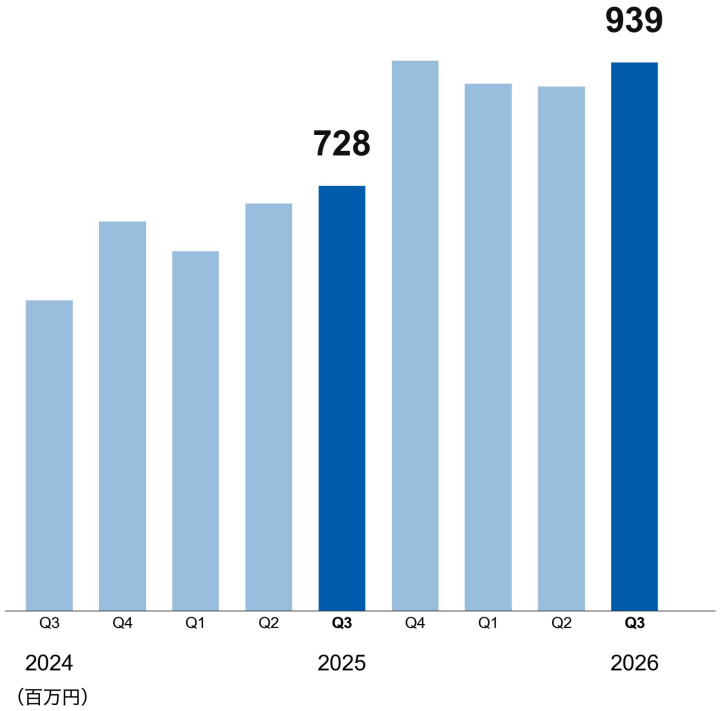


有料ID数
前年同期比
30.4%増



売上高（成長、収益）

AWSとの共同営業施策によるパイプラインの大幅増加

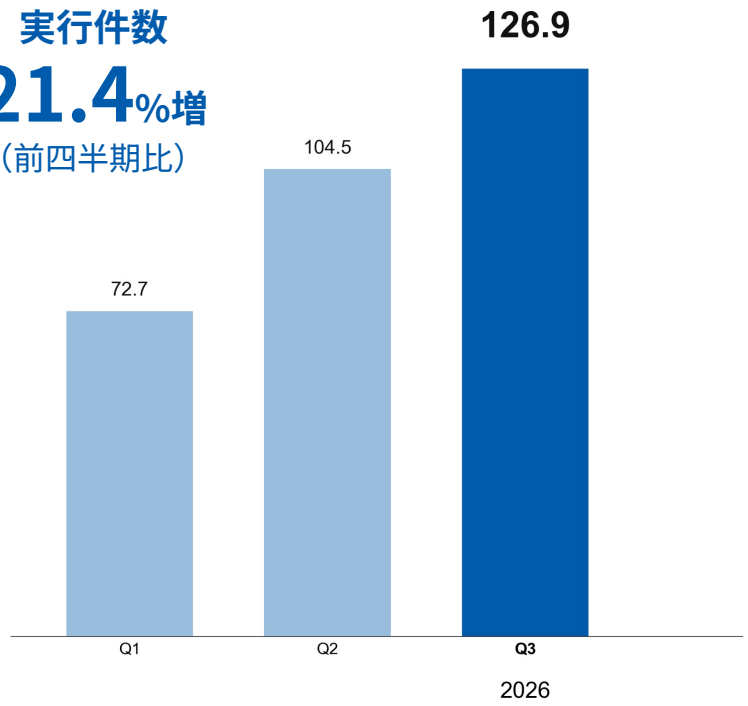


前年同期比

29.1%増

API接続実行件数（利用拡大）・サービス連携数（連携先拡大）

API接続実行件数
21.4%増
（前四半期比）



120種類以上のコネクタで、SaaSから社内システムまで幅広く連携

- AI
- 販売・在庫
- 勤怠・タスク
- 開発・運用
- 営業・マーケ
- EC
- ヘルスケア
- 人事・総務
- コミュニケーション
- 財務・法務

など

■ 連携サービス（一部抜粋）

kintone　slack from Salesforce　LINE WORKS　freee 会計

マネーフォワード クラウド会計　Salesforce　バクラク　勘定奉行クラウド　SmartHR

PCA会計　楽楽精算　HubSpot　Google Drive　Microsoft Teams

今後の見通し（連結）

2026年12月期 通期業績見通し

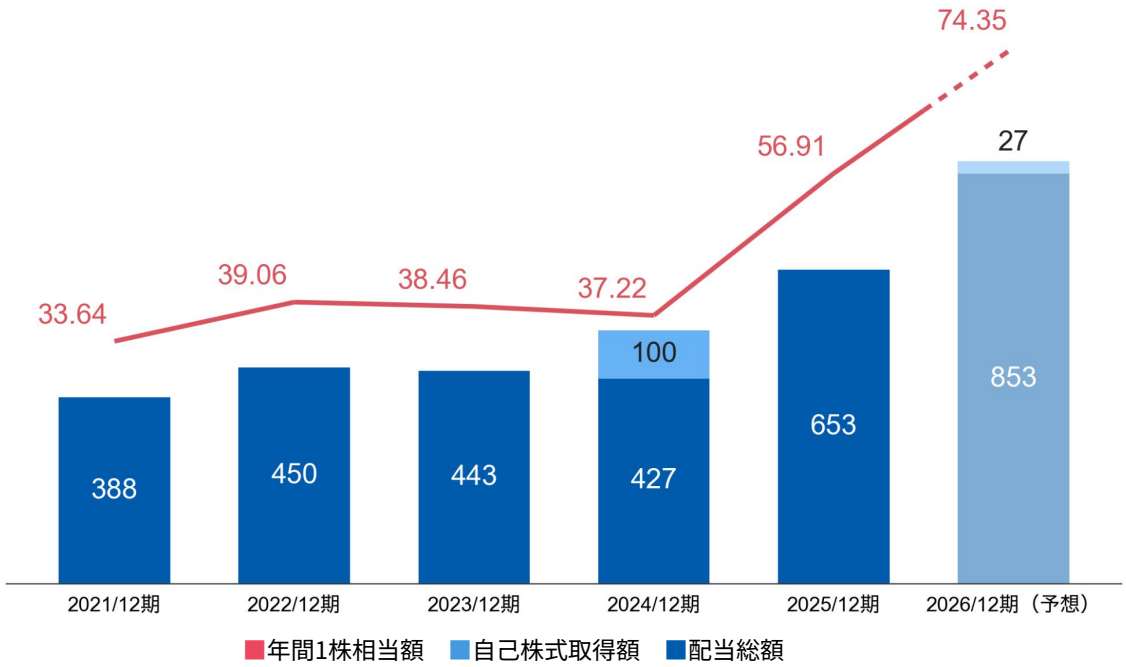
純利益予想を上方修正、年間配当額予想74.35円に増額

GMOデジタルラボ株式会社の株式の譲渡に伴い、子会社株式売却益を特別利益に計上

	売上高 （百万円）	営業利益 （百万円）	経常利益 （百万円）	親会社株主に 帰属する 当期純利益 （百万円）	1株当たり 当期純利益 （円 銭）
前回発表予想（Ａ）	22,286	1,622	1,589	1,052	91.79
今回修正予想（Ｂ）	22,286	1,622	1,589	**1,312**	114.38
増 減 額（Ｂ－Ａ）	0	0	0	**260**	-
増 減 率（％）	0.0%	0.0%	0.0%	**24.7%**	-
（参考）前期連結実績	20,670	1,475	1,435	1,005	87.55

株主還元の拡充

期末配当14.68円増額、74.35円



配当性向

65%以上

または

DOE4%

いずれか高い方

※2026年12月期の自己株式取得は、2026年1月に実施済み

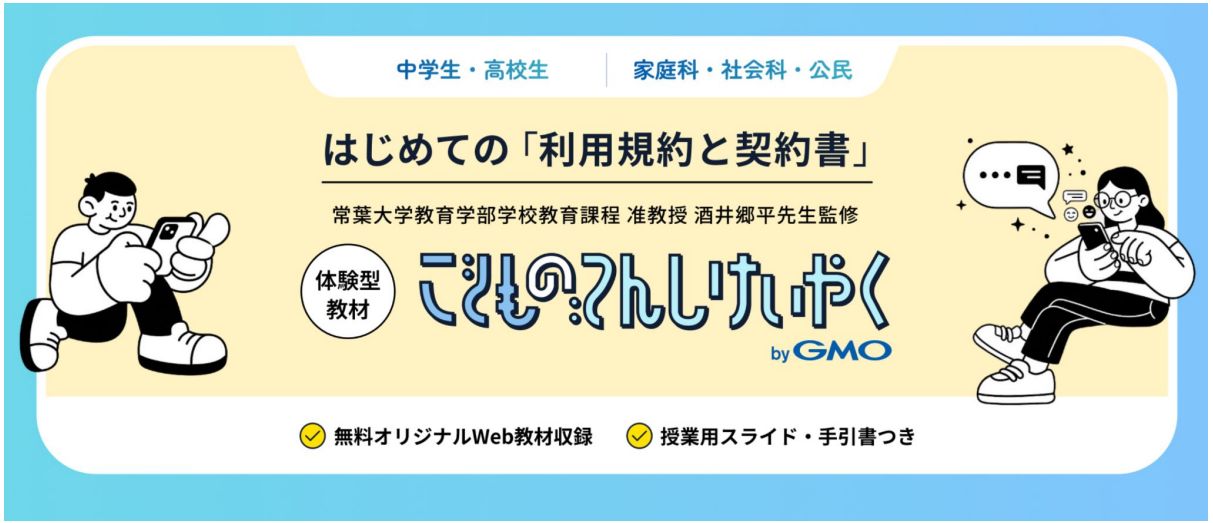
トピックス

ビジネス・トピック： 10/21 電子印鑑GMOサイン AI Flowオプション



- 生成AIから電子印鑑GMOサインの契約情報にアクセス、自然言語で指示すると、生成AIが必要なGMOサインの機能を呼び出します。
- ①必要な契約書をAIに聞いて探す、②過去の契約情報を文書作成に活かす、③AIから署名を依頼する、などでご活用いただけます。

非財務トピックその1：こどものでんしけいやく



- 契約リテラシーを育む、体験型教材「こどものでんしけいやく」を、常葉大学教育学部学校教育課程 准教授 酒井郷平先生と共同開発中
- 学校をはじめとする教育機関対象に無料で提供予定

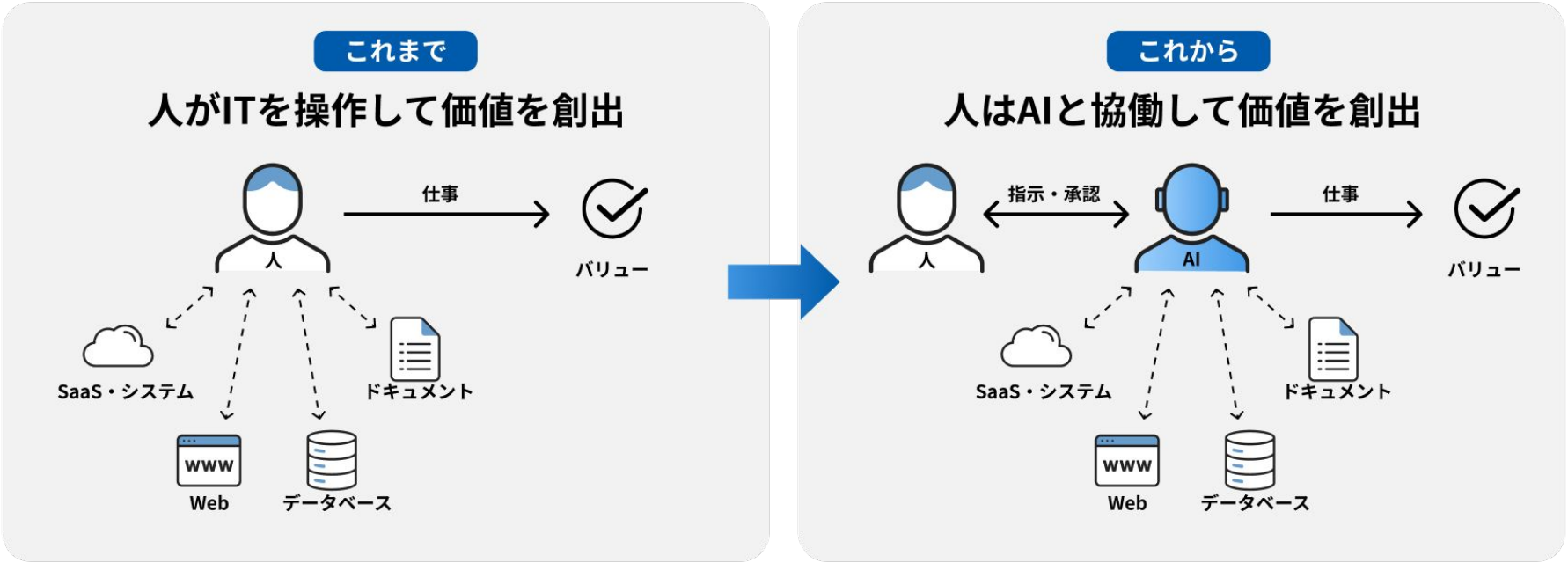
非財務トピックその2：電子印鑑GMOサインにてグッドデザイン賞受賞



- あらゆるシーンに対応する多様な署名方法の実装と、アクセシビリティ向上の取り組みに加え、親しみやすいブランディングが評価され2026年度のグッドデザイン賞を受賞しました。

次の成長に向けて
「AI × 認証 × インフラ」

AIによって変わる仕事と「価値創出」



AI活用は必然。だが、任せるほどリスクも広がる

扱う情報と接続先が増える

情報侵害

例：利用を認めていない外部AIに、顧客情報や未公表情報を入力。

任せる範囲と権限が広がる

誤判断 / 誤実行

例：誤った数値で資料を作成し、人の確認前に取引先へ送信。

AIの業務実行が攻撃対象に

攻撃 / 不正利用

例：外部文書の不正な指示に誘導され、社内情報を外部送信。

「権限を全部取り上げろ」
NVIDIA フアンCEO



「AIを内部リスクとして扱え」
Microsoft ナデラCEO



Nvidia :
https://www.linkedin.com/posts/nvidia-ai_ai-agents-need-clear-limits-on-what-they-activity-7510379266090418176-By8v
https://tech.yahoo.com/ai/articles/jensen-huang-keeping-ai-under-183031160.html?guccounter=1
MS：https://www.itmedia.co.jp/news/article/2610/12/2000002195/
※本スライドにおける両CEOの発言・投稿は、原文の趣旨を当社にて要約・意訳したものです。

AIエージェント時代に求められる信頼とは

身元・権限・実行を「統制する仕組み」が必要



人・企業・AIの身元と
所属・責任の所在を確認



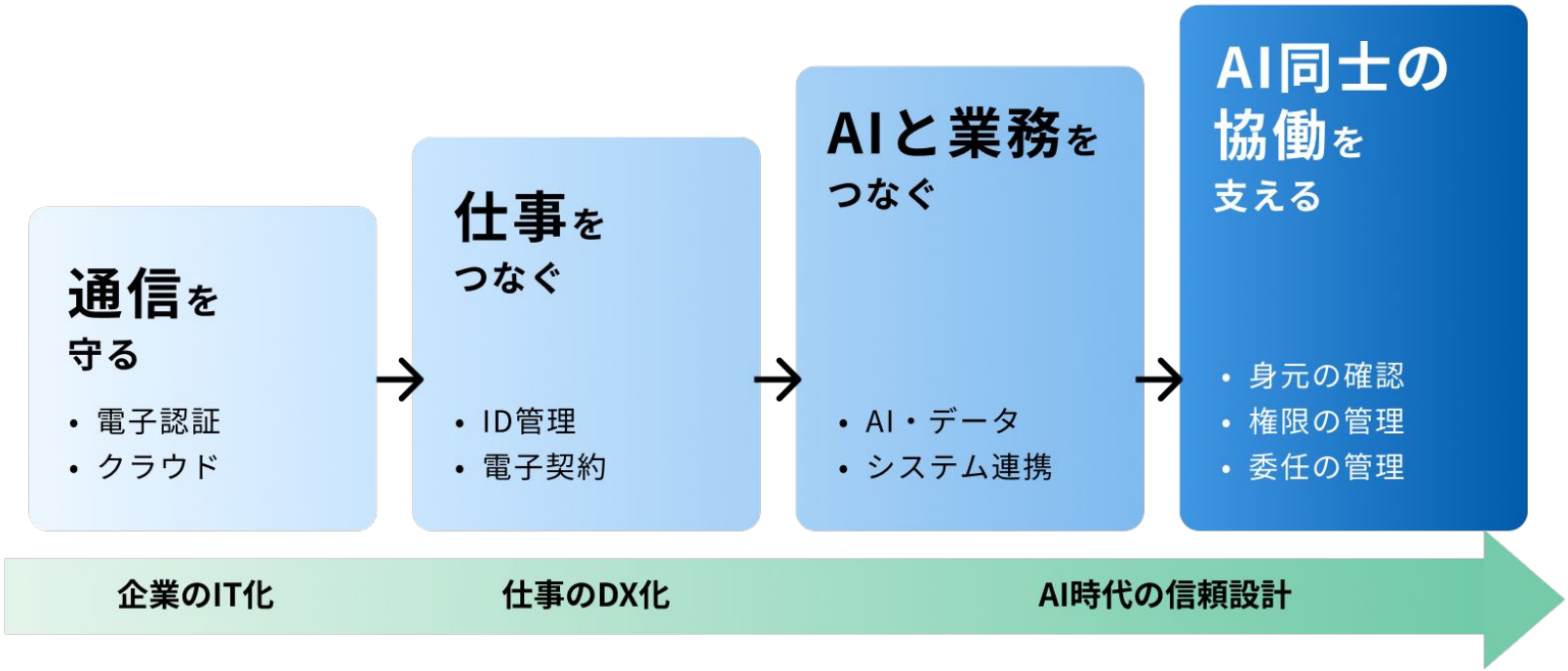
操作の範囲・承認ルール・
停止条件を設定



合意と実行履歴を残し、
後から確認できる状態にする

AIと業務システムを連携し、安定運用できるAI統制基盤が必要

AIに安心して仕事を任せられる社会へ



「AI×認証×インフラ」の実現



身元確認・ID管理・AI連携を組み合わせて
信頼できるAIエージェントに仕事を任せられる業務基盤に進化

2040年、信頼できる社会インフラ企業へ



Next 2040

信頼を設計し、世界をつなぐ。

Designing trust. Connecting the world.

私たちは、インターネットが信頼できる情報でつながり、透明性のある世界を目指しています。
それは、見えない信頼を、確かな技術で「設計」し、誰もが安心して使える仕組みにすること。
信頼に満ちた社会インフラの発展に貢献し、この領域で世界シェアNo.1に挑みます。

第3四半期決算総括

業績

累計増収増益。四半期営業利益は前四半期比で回復
年間配当予想を74円35銭に増額

事業

注力サービスである「GMOサイン」「GMOトラスト・ログイン」「CloudCREW byGMO」が引き続き好調

戦略

「AI × 認証 × インフラ 」実現に向けて
「JOINT AI Flow byGMO」強化や共同実験を実施

2027年3月に中期経営戦略を発表予定



Appendix



GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社

証券コード	3788（東証プライム）
設立	1997年5月（当時：株式会社アイル）
事業内容	電子認証・印鑑事業（盗聴・改ざん・なりすまし防止・ログイン認証強化、電子契約） クラウドインフラ事業（クラウド・レンタルサーバー） DX事業（AI・データ統合プラットフォーム、IoT関連）
主要株主	GMOインターネットグループ株式会社（東証プライム：9449） ※2001年5月　GMOインターネットグループへ参加
連結企業群	15社　連結12社（国内5社、海外7社）非連結3社（2026年9月末現在）
パートナー数	947名（2026年9月末現在）非連結含　正社員数のみ

GMOグローバルサイン・HD
GlobalSign

One GlobalSign Way　企業理念

Mission
私たちの使命

コトをITで変えていく

この地球の果てから果てまで、すべての人に私たちのサービスを届けたい。
どんなに優れたITサービスでも、一部の人にしか使えないのでは意味がありません。
もっと気軽に、もっとわかりやすく。ありとあらゆる人々に。
新たな体験価値に出会って欲しい。
それは、私たちの創業時からの変わらぬ願いです。
ITのチカラが私たちの身の回りで起こるコトを変えていく。
その変化がアタリマエになった時、どんな社会が実現するのでしょうか？
コトをITで変えていく。
便利で豊かな笑顔ある社会を広げていく。
それは未来永劫にわたる、私たちの使命です。

Value
私たちの価値観

ワクワク

Vision
私たちの目指す姿

One & 1st

One

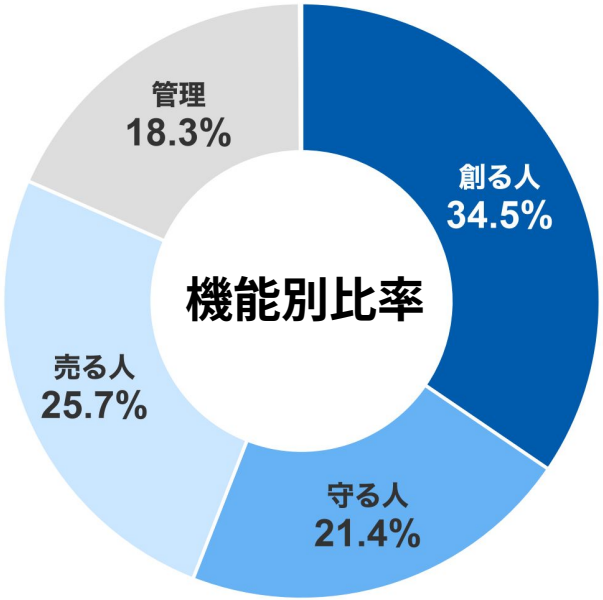
ひとつになろう。
インターネットという広大な空の下、新たに生まれた事業は、それぞれに大きくなってきました。
これからも画期的な価値を社会に提供していきたい。
そのためにもひとつという思いを共有し、シナジーを生み出せれば、もっと面白いこと、もっとすごいことが、きっとできる。

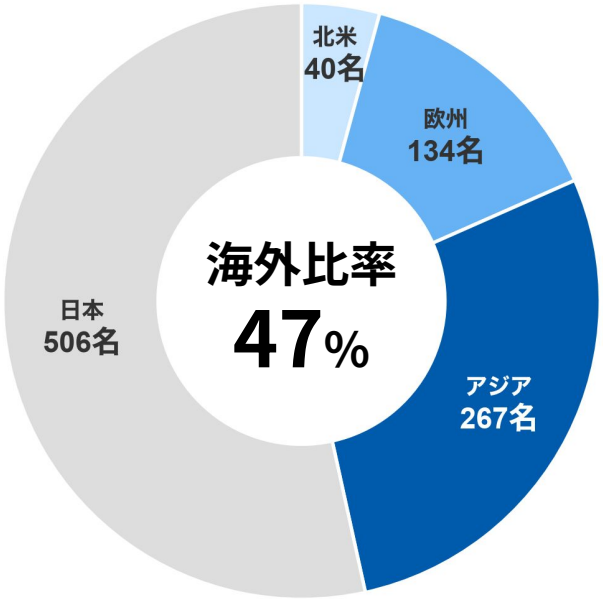
1st

失敗を恐れない。
はじめては誰でもこわい。
誰も挑んだことがないところに、
ワクワクがある。
誰もやったことのないコト見慣れたものの中にある誰も気づいていないコトこれまでも、これからも、
私たちは意欲的に「はじめて」を
追い求め、日本初、世界初を
生み出していきます。

パートナー構成　-開発・運用・営業を支えるグローバルな人員体制-

各機能に人材を配置し、約47%が海外拠点に在籍
事業の企画・開発からインフラ運用までを自社で担う





※GMOインターネットグループでは、共に働く仲間たちをパートナーと呼んでいます

透明性の高い経営とガバナンス

独立した監督機能と、透明性の高い意思決定により、健全な経営を推進

独立社外取締役による監督

取締役会に全回出席

- 独立社外取締役が取締役会で経営を監督
- 監査等委員会と月1回の連携を実施
- 支配株主との利益相反取引の確認

利益相反取引における適正な意思決定

取引の必要性・妥当性を確認

- 支配株主との重要な取引は、監査等委員会の意見を取得したうえで取締役会で審議・決定
- 当社のメリットや少数株主保護の観点を考慮
- 利益相反に関係する役員は決議に参加しない

独立した指名・報酬プロセス

3名中2名が独立社外取締役

- 指名・報酬委員会を設置
- 独立社外取締役が委員長
- 取締役・執行役員の指名・報酬等を審議
- 取締役会に答申

経営情報のオープン化

全パートナーに公開

- 取締役会をはじめとする各種経営に関する議事録をパートナーへ公開
- 情報をオープンにした透明性の高い組織運営

事業・主力商材紹介

セキュリティでインターネットの安全を支える

電子認証・印鑑事業

電子認証・ID管理

GlobalSign by GMO

GMOトラスト・ログイン

電子印鑑なら
GMOサイン

クラウドインフラ事業

安全なクラウド基盤の提供

CloudCREW by GMO

GMO CLOUD

AI・クラウド活用で企業のDXを支援する

DX事業

より便利で簡単な
AI・クラウドサービスの提供

JOINT AI Flow by GMO

hakaru.ai by GMO

セグメント別業績

売上高

セグメント	2025年Q3	2026年Q3	前年同期比
電子認証・印鑑	9,573	10,525	＋9.9%
クラウドインフラ	5,263	5,867	＋11.5%
DX	676	652	△3.6%
消去又は全社	△404	△400	―
連結計	15,108	16,644	＋10.2%

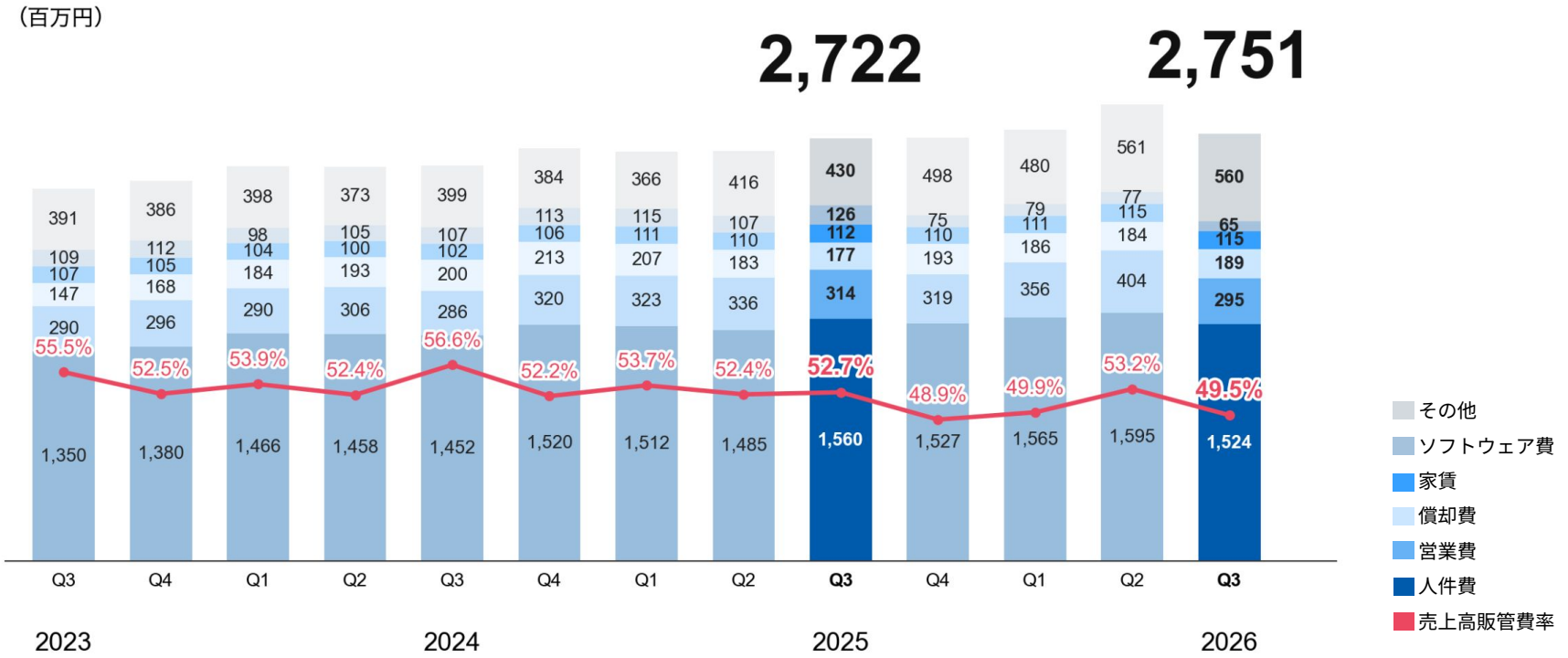
営業利益

セグメント	2025年Q3	2026年Q3	前年同期比
電子認証・印鑑	881	839	△4.8%
クラウドインフラ	164	149	△9.1%
DX	△82	△29	―
消去又は全社	19	37	―
連結計	983	997	1.4%

四半期販売管理費及び一般管理費の増減

販管費は前年同期比 1.1%増、売上高販管費率は 3.2ポイント改善

└人件費は前年同期比2.3%改善、営業費は6.2%改善



連結貸借対照表

単位：百万円	2025年12月末	2026年9月末	増減率
流動資産	12,901	12,770	△1.0%
（現金預金）	8,936	9,215	+3.1%
（売掛金及び契約資産）	2,894	2,418	△16.5%
固定資産	6,061	6,635	+9.5%
（ソフトウェア）	4,275	4,180	△2.2%
（投資有価証券）	306	363	+18.4%
資産合計	18,963	19,406	+2.3%
負債	8,612	8,579	△0.4%
（契約負債）	2,922	3,112	+6.5%
（借入＋リース債務）	2,695	2,599	△3.6%
純資産	10,350	10,826	＋4.6%
（株主資本）	8,227	8,651	＋5.2%
（その他包括利益）	2,100	2,147	+2.2%
（非支配株主持分）	22	27	+24.2%
負債・純資産合計	18,963	19,406	+2.3%

連結損益計算書

単位：百万円	2025年Q3	2026年Q3	増減率
売上高	15,108	16,644	+10.2%
売上原価	6,124	7,176	+17.2%
売上総利益	8,983	9,467	+5.4%
販売費及び一般管理費	7,999	8,470	+5.9%
（人件費）	4,557	4,684	+2.8%
（プロモーション費）	975	1,056	+8.3%
（減価償却費）	567	549	△3.2%
営業利益	983	997	+1.4%
（営業利益率）	6.5%	6.0%	―
経常利益	957	1,038	+8.5%
税金等調整前当期純利益	950	1,461	+53.7%
法人税等	244	353	+44.3%
親会社に帰属する当期純利益	703	1,104	+57.0%

用語集

AIエージェント	人の指示により自律的に業務をこなすAI。本資料ではAIに仕事を任せる世界の前提として説明。
API	Application Programming Interface。異なるソフトウェアやシステム間で機能やデータを連携するための仕組み。
ARR	Annual Recurring Revenue の略称。各四半期の平均売上を12倍して算出。
CLM	Certificate Lifecycle Management。証明書の発行・更新・失効を一元管理すること。
DOE	Dividend on Equity。株主資本配当率。当社はDOE4%も配当方針の目安として併記しています。
DSS	Digital Signature Service。電子契約・電子署名領域の標準的サービス。
EBITDA	営業利益に減価償却費、のれん償却費 を加算した利益指標。キャッシュ創出力を測る比較指標として用いています。
eKYC	electronic Know Your Customer。電子的な本人確認。金融機関、行政などで利用拡大中。
IDaaS	Identity as a Service。ID管理・SSO・アクセス制御をクラウドで提供するサービス。
MCP	Model Context Protocol。AIと業務システムをつなぐためのプロトコル / 接続規約。
VMC	Verified Mark Certificate。メールの送信元企業のロゴを認証し、メールに表示するための電子証明書。メールの信頼性向上に利用されます。
ストック型事業	月額・年額など継続課金が中心の事業。景気に左右されにくく、累計で安定収入を生みます。
配当性向	当期純利益のうち、配当金の支払いに充てる割合。株主への利益還元の水準を示す指標。
パートナー	GMOインターネットグループでは、共に働く仲間たちをパートナーと呼んでいます。
創る人	エンジニア・クリエイター・ディレクターなど、サービスを構築・改善する人材
守る人	サポート・管理など、事業運営・品質・組織基盤を支える人材
売る人	営業・マーケティング・PRなど、顧客開拓・売上拡大を担う人材

GMOグローバルサイン・ホールディングスの情報発信

“わかりやすく”をモットーに、さまざまなコンテンツを発信しております

公式チャンネル @GMOGSHD_JP

公式X @GMOGSHD_JP

公式IR note @gmogshd

最新IR情報をお届け！
IRメールマガジン

登録はこちら

GMOグローバルサイン・HD GlobalSign
IRサイト

「AI × 認証 × インフラ 」

AIに安心して仕事を任せられる社会に向けて

AIの進化により、人と企業、サービスのつながり方が大きく変化する中、本人確認や情報の真正性、安全な通信など、デジタル社会における「信頼」の重要性が高まっています。

当社は、世界で電子認証局を運営するGlobalSignを中心に、電子認証・電子署名、ID・アクセス管理、クラウドインフラなどの技術と実績を培ってきました。

今後は、これらの強みをAI領域へと広げ、認証・インフラとの融合により、デジタル社会を支える「信頼の基盤」の構築と持続的な成長を目指してまいります。

免責事項

- 本資料の内容は、作成日時点において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢ならびに当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

- 本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者がその他の目的で公開または利用することはできません。

当資料に関するお問い合わせ先
GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社　社長室
お問い合わせフォーム：https://form.gmogshd.com/contact/ir/